

脳神経外科

島根県立中央病院は島根県の中核病院として高度先進医療、政策医療を含め、ドクターヘリ配置の高度救命救急センター、地域周産期母子医療センター、がん診療地域拠点病院、その他さまざまな役目を担っています。24時間すべての救急患者は救急外来でトリアージされ、神経内科、救命救急科など協力のもと、脳外科医として手術に集中できるとても働きやすい環境です。昨年までの3年間平均手術件数は291件で、脳動脈瘤クリッピング術、脳腫瘍(神経膠腫・髄膜腫・聴神経鞘腫等)摘出術、開頭血腫除去術、脳動静脈奇形摘出術、頸動脈内膜剥離術、バイパス術、微小血管減圧術といった顕微鏡を用いた直達術から、脳動脈瘤コイル塞栓術、頸動脈ステント留置術、血栓回収術、脳動静脈奇形や硬膜洞動静脈瘻に対する塞栓術、腫瘍栄養血管塞栓術等の血管内手術、そして内視鏡下血腫除去術や経鼻的下垂体腫瘍摘出術など、症例に偏りがなく、患者第一で状況に応じた治療法選択を心がけています。特に急性期脳梗塞に対する血栓回収術においては手術手技のみならず、Door to puncture(来院から手術開始まで)を短縮すべく体制づくりからBrush upしており、成果を上げています。また、専門医前の若い先生にも、顕微鏡手術やカテーテル手術など難易度が高い手術を指導医のもと習得してもらっています。

毎年8月第1週の土曜日には学生、臨床研修医を対象に顕微鏡手術、血管内手術、ドリリングを実際に体験する「島根県立中央病院脳神経外科ハンズオンセミナー」を開催しております。興味のある方は一度是非脳神経外科の世界を体験してみてください。学会や論文活動の教育にも力を入れており、臨床研修医から全国学会で口演発表を行っています。そのために、英語論文作成もしっかりサポートします。

一次から三次まで様々な救急患者の初期対応と脳神経外科の診断、治療を幅広く経験でき、脳神経外科の神髄を学べる施設です。

